

No.2 平成30年度公式メッセージ



平成30年度第71回卒業式

平成31年1月29日(火)

校長式辞要旨「今を生きる」

浪速高等学校長
木村 智彦

1. 始めに

風は肌寒いですが青雲の志に萌えている若者を前にして本校出入りの花屋さんは皆さんの為に壇上に有る如く素晴らしい生きた桜の花を用意してくれました。本日1月29日、学校法人浪速学院浪速高等学校の第71回全日普通科課程の卒業証書授与式にあたり、式辞を申し述べます。

2. 来賓紹介と御礼

まずご来賓の皆様をご紹介します。

大阪府神社庁長

監事

又内勤役員理事長職務代理

浪速学院同窓会副会長

P T A会長

藤江正謹 市内平野区の杭全神社宮司様

鈴木一男 市内中央区の玉造稻荷神社宮司様

南坊城充興 市内住之江区の大阪護国神社宮司様

河内長野市議会議員 堀川和彦様

辻博文様はじめP T A役員の皆様方

多くの方々のご臨席を賜り、誠に有難うございました。壇上からではありますが厚く御礼申し上げます。

3、保護者への挨拶

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業誠におめでとうございます。この3ヵ年、浪速中学からですと6カ年の間、日々成長していく高校生としてのお子様の姿を見続け、今日、このようにして無事に卒業式を迎えられたこと、お慶びも如何ばかりかと存じ上げます。心からお祝い申し上げます。今年は本校始まって以来、「平日卒業式」となりました。学校行事などを組み換えるなどして検討しましたが、卒業生、在校生、生徒中心に考えますとこのような形になりました。今や多くの私立学校が平日に切り替えており、時代の流れとも言えるのでしょうか、来年度以降も平日卒業式が固定されると思います。いずれに致しましても今日までの本校教育へのご理解とご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

4. 卒業生へ

- ・さて卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。入学式から今日までの皆さんの頑張り、努力にたいして心から拍手を送ります。ここに集う698名の一人ひとりがしっかりと積み上げてきた集大成が今日の卒業式です。
- ・今から96年前の大正12年(1923)、歴史と由緒あるここ住吉の地に旧制浪速中学校として創立され、以来、大阪を代表する私学の代表として96年の歴史を刻み、幾多の有為な人材を世に送り出し、皆さんは新制高校通算71期の卒業生ということになります。
- ・皆さんはこの浪速高校の伝統を引き継ぎ、素晴らしい教育環境の中で多くのことを身につけました。そして何よりも皆さんが得たかけがえの無い宝物が本日の卒業証書と浪速高校の仲間、友人です。高校3年間、共に学び、喜び、笑い、悩み、泣き、助け合ってきた友人と友情がまず皆さんの最初の人生の財産です。
- ・本日の698名を入れて34100名の同窓の力は、それは大きなもので、今後の人生で皆さんは浪速の卒業生であるという有り難さを実感する場面も多々あると思います。どうか浪高同窓の誇りと絆を大切にしてください。そして今日まで皆さんを温かく見守り、指導し、支えて呉れたご両親、先生方、同窓会、ご関係の皆様、他多くの方々への神道の言葉である「報恩・感謝の気持」を忘れてはならないと思います。皆さんが今胸に付けている「カーネーションの花」はそのような意味合いであり本校伝統の形です。

5. 「今を一生懸命に生きる」

- ・さて皆さん、卒業式にあたり、校長の言葉として以下の事を申し述べます。在校中に幾度となく私はあらゆる機会を通じて皆さんに思いをお伝えして来ました。その要点は一言で言えば「今この時を一生懸命に生きる」ということでした。
- ・我々が直面する一刻一瞬の時間を「我が命、運命」と捉え、それを力一杯充実せしめることによって自分の人生の中に生きる価値を見出すという考えこそが神社神道の教えであり本校教育の骨子なのです。これが神道の教える「中今の思想」です。
- ・今日以降はまず気を付けなければいけないのは、大人としての自覚を持つことです。つまり、周囲の迷惑になっても、我を通すというのは、中今の思想ではありません。自分のやりたいことが、同

時に誰かの希望にもなり、また自分自身もより良い方向に向上していける。このことが中今の思想です。

- 出来ないことを心に持っている、わだかまりが生じます。出来ないのはいろいろな理由があると思います。時間がないから、お金がないから、努力したけど思ったほど、上手く出来ないから等々。でも、出来ないことまで、神様はあなたに望んでいません。自分の出来る限りのことを精一杯、一生懸命努力する。そこに、感動と喜びと美しさが、生じます。そして、少しでも上手に出来たら、上手く行ったらもっと頑張りたい。もっと上手になりたいと思う筈です。これが、八百万の神様の願いに叶う、日本人らしい、健全な精神のあり方だと私は思っています。
- 将来に夢を描いて、ただそこに空想するだけではいけません。「今この時を大切に生きる」ことが結局は最も効果ある後悔のない生き方だと教えてきました。一生懸命に生きると言うことは「努力する」「耐える」ということです。「生きる」ということはそういう事だと私は思っています。
- 人生は順風満帆ではありません。これからも多くの試練が待っているでしょう。皆さんは高校という狭い世界から大学へ、そしてその後は社会ということになります。益々広くて面白い社会であるが、それだけに複雑で難しい社会です。現実には厳しいと覚悟しておかねばなりません。苦難、逆境、良い事も悪い事も実に様々な現象が皆さんの周辺に起きてくるでしょう。人生とはそういうものです。
- それだけに皆さんはまず「志」を持たねばなりません。これさえ持てば生きていける。それは人生の目標、希望、志があれば、その実現に向かってこそ我慢と努力と忍耐のエネルギーが内から生まれるからです。明日への希望が無い処にやる気は出てこないものです。自分の現状を変えることが出来るのは意識と努力することです。これ以外に方法は有りません。この意識と努力に「人間力の差と価値」があるのです。
- 個人の自由だとか、権利だと声高に叫んでいるだけでは自分の周りや世の中は変わりません。「人間として薰り高い尊敬に値する人間」とは「失敗をしても七転び八起きで、立ち上がり、涙ぐましい努力で自分の人生を切り開いた」人々であります。不幸、不運を他人のせいにしても解決にはなりません。どうか「志」実現に向かって「諦めず努力する」ことを忘れないで下さい。それが今を生きるということですよ。
- 今流れている曲は今から40数年前に大ヒットした松山千春と言う歌手の「大空と大地の中で」という歌です。この中に「生きることが辛いとか苦しいとか言う前に野に育つ花ならば力の限り生きてやれ」というフレーズがあります。その通りで皆さん、力の限り生きて行って下さい。

6. 最後に

- 君たちの学年は生徒数も多く、個性的な生徒も多くて、学校に大きなエネルギーを与えて呉れました。それだけに私は校長としてこの学年には特別な思い入れがあります。3年前の5月には新校舎と新学院神社が竣工し、君たちが在籍した3年間はまさしく学校が大きくその形を変えた時でした。東館も中央館も、神社も正門も駐輪場も全て君たちが使い始めました。完全に衣替えした学校で君たちは浪速祭も楽しむことが出来ました。海外修学旅行も予定通りで素晴らしい思い出になりましたね。
- 今日私は一冊の本を貴方方にプレゼントします。君たちへの校長の特別な贈り物と理解してください

い。それは出雲井晶先生の「日本神話の心」という本です。背裏に君たちの名前を墨書きし私の印鑑を押しています。幾ら国際化などと言っても自分が生まれ育った日本という国の歴史を正しく理解することが重要です。皆さんは日本でも少ない神社神道の学校を今日卒業します。神社神道の精神は日本の文化そのものです。この本には日本国誕生の神話の世界が分かり易く書かれています。今は読まなくとも生涯に亘って是非近くにおいて日本の原点をしっかりと知って欲しいのです。卒業証書とは別の神社神道の学校を卒業した証しの本だと思って下さい。正しい歴史感が正しい判断力に繋がるものと信じています。

- ・ この卒業式は平成時代最後の卒業式です。5月には新しい元号となり新しい御代になっていきます。この「御代替り」の年に本校を巣立っていく貴方方の未来は何か輝いているように校長は思えてなりません。皆さんは新しい御世を社会の一隅で支え、21世紀を生きなければなりません。21世紀は皆さんの時代です。AIやロボットなどが益々発達し情報通信の高度化や高速化がますます進展して行くでしょう。国際社会における国家間の構図の変化や地球規模での価値観の転換期にあるように感じますが、激動の中で埋没することなく、しっかりと実力をつけ、自分の場所を見つけ、その分野を照らす立派な人間になって欲しいと思います。その為に「今を一生懸命に生きよ」と言っています。
- ・ 本当に皆、良く頑張ったし、良い生徒ばかりだったと思います。立派に成長した君達をこのようにして送り出すことが出来たことを誇りに思います。皆、健康に気をつけて「浪速で学んだ誇り」を失うことなく頑張ってもらいたいと思います。校歌にもあるように「我ら浪速」です。名残は尽きませんが、重ねてお祝いを申し上げ、皆さんの健康と健闘を祈り、式辞と致します。

以上